



多忙化解消に向けて 「学校運営支援員」モデル校事業・外部人材の活用推進モデル事業 報告一

勤務時間外の業務が指標となる「多忙化」とともに、それぞれの教職員が抱く「多忙感」の実態を把握し、その解消を目的として、学校の実態に応じた効率化やターゲットを絞った取組を1年間継続することで、実効性のある方策を検証する



- (1) 「業務量・負担感に関するアンケート」
- (2) 「時間外業務詳細調査」
- (3) 学校運営支援員(再任用ハーフ)及び分掌業務補助員の配置
- (4) モデル校の実情に応じた多忙化解消の取組

「学校運営支援員」モデル校の特徴的な取組

「業務量・負担感に関するアンケート」「時間外業務詳細調査」の結果

沼津城北高校

○学級減による組織再編と多忙化・多忙感解消に向けての意識改革
アンケート調査をもとに、ビジョン検討委員会で「学校経営計画・校内人事・学校運営支援員・組織の統廃合・時間外業務の縮減・業務の効率化・労務管理」について多忙化・多忙感の現状を見直し、具体策を職員会議で提案・実施

吉原高校

○ICT(クラウドサービス)を活用した校務効率化
各種調査・アンケートのメール配信と自動集計
生徒・保護者が閲覧できる入試情報一元化
生徒情報一元化
Webテスト(課題)配信

島田高校

○職員の意見を集約しての業務精選
コーディネートのための各分掌副代表からなる組織「業務精選 検討委員会」を設置し、各分掌の計画立案に業務精選の視点を位置付け

浜松東高校

○クラウドサービスを使用したアンケートの実施(事務の効率化)
生徒・職員、教科・分掌等のアンケート集計、生徒による授業評価等の集計

○学校支援員による個別面談等の教職員支援について
業務量・負担感アンケートの結果、負担感が「非常に大きい」と回答した職員に対しての個人面接

○各分掌等による業務効率化の推進
業務量・負担感アンケートの結果を受け、組織的な対応(担任・副担任役割分担、分掌役割分担検証、補習授業への組織的な支援)



取組の成果

「学校運営支援員」各モデル校の取組により、時間外業務の平均時間数、業務量・負担感の数値が減少

「業務量・負担感に関するアンケート」

- 「業務量-負担感」の間に相関が見られ、業務量が多いと感じれば負担感も大きいと感じる傾向あり
- 業務量・負担感に学習指導等教科指導と分掌業務において、多い(大きい)傾向あり

「平成28年6月の時間外業務詳細調査」(対象 モデル校4校教職員計 174人)

- 1月当たりの時間外業務は平均45.9時間(部活動27.4時間、学習指導8.9時間、分掌4.9時間)
- 持ち帰り業務は平均5.2時間
- 時間外業務に従事した教員の割合は88.9%
- 持ち帰り業務を行った教員の割合は29.9%(持ち帰り業務は70%以上の教員が0時間)
- 20歳代女性の時間外業務の平均が82.9時間と突出
- 学級主任の時間外業務の平均は70.3時間
- 学年・分掌主任等の時間外業務の平均は53.4時間
- 養護教諭は業務量・負担感アンケートで高い数値
- 時間外業務が月100時間以上の教員は従事時間の90%を部活動に従事

1月当たりの時間外業務の平均時間数

	実施月	4校平均
①	平成28年2月	31.1
②	平成28年6月	45.9
③	平成28年10月	40.3
④	平成29年2月	28.5
④-①	平成28年2月-平成29年2月	-2.6

業務量・負担感に関するアンケート(平成28年2月と平成29年2月との比較) ※ ()内は3、4と回答した人数割合(%)

学校名	業務量					負担感				
	A 学習指導 等教科指導	B 生徒指導 担任業務	C 分掌業務	D 部活動	E その他	A 学習指導 等教科指導	B 生徒指導 担任業務	C 分掌業務	D 部活動	E その他
沼津城北 (H28年2月)	2.5 (44.1)	2.5 (35.3)	2.8 (61.8)	2.3 (41.2)	2.6 (50.0)	2.5 (45.5)	2.5 (41.2)	2.7 (52.9)	2.3 (41.2)	2.6 (50.0)
沼津城北 (H29年2月)	2.4 (35.3)	2.0 (23.5)	2.4 (38.2)	2.1 (11.8)	2.0 (11.8)	2.0 (26.3)	2.0 (23.6)	2.4 (32.4)	2.1 (29.5)	2.1 (14.7)
増減	-0.1 (-8.8)	-0.5 (-11.8)	-0.4 (-23.6)	-0.2 (-14.7)	-0.6 (-38.2)	-0.4 (-19.0)	-0.5 (-20.6)	-0.3 (-20.5)	-0.2 (-14.7)	-0.5 (-35.3)
吉原 (H28年2月)	2.5 (42.9)	2.3 (28.6)	2.3 (31.0)	2.2 (26.8)	2.4 (21.4)	2.5 (40.5)	2.3 (31.0)	2.4 (35.7)	2.2 (29.3)	2.0 (23.8)
吉原 (H29年2月)	2.3 (26.8)	2.1 (22.0)	2.1 (24.4)	2.0 (19.5)	1.9 (12.2)	2.2 (29.3)	2.1 (26.8)	2.1 (11.1)	2.1 (26.8)	1.9 (12.2)
増減	-0.2 (-16.1)	-0.2 (-6.6)	-0.2 (-6.6)	-0.2 (-7.5)	-0.5 (-9.6)	-0.3 (-11.2)	-0.2 (-4.2)	-0.3 (-18.6)	-0.1 (-2.5)	-0.1 (-11.6)
島田 (H28年2月)	2.5 (46.2)	2.4 (31.6)	3.0 (46.2)	2.2 (27.5)	2.2 (29.0)	2.5 (38.5)	2.2 (20.5)	2.6 (50.0)	2.1 (20.0)	2.2 (29.0)
島田 (H29年2月)	2.5 (40.0)	2.4 (35.9)	2.4 (33.3)	2.1 (20.0)	2.0 (19.4)	2.3 (27.8)	2.3 (33.3)	2.3 (27.8)	2.0 (21.6)	1.9 (12.1)
増減	±0 (-6.2)	±0 (+4.3)	-0.6 (-12.9)	-0.1 (-7.5)	-0.2 (-9.6)	+0.1 (+12.8)	-0.2 (-22.2)	-0.1 (+1.0)	-0.1 (-16.9)	-0.3 (-16.9)
浜松東 (H28年2月)	2.2 (25.5)	2.1 (23.6)	2.3 (36.8)	2.1 (27.3)	2.1 (22.4)	2.1 (25.9)	2.1 (+12.8)	2.3 (37.5)	2.1 (25.9)	2.1 (22.9)
浜松東 (H29年2月)	2.2 (24.6)	2.1 (21.1)	2.3 (28.1)	2.1 (26.3)	2.1 (16.0)	2.2 (24.6)	2.1 (24.6)	2.3 (33.1)	2.1 (24.6)	2.1 (20.0)
増減	±0 (-0.9)	±0 (-2.5)	±0 (-8.7)	-0.1 (-1.0)	±0 (-6.4)	+0.1 (+1.3)	±0 (-1.3)	-0.1 (-9.4)	-0.1 (-1.3)	±0 (-2.9)

※ 数値は各学校の平均値 業務量(負担感) 1少ない(小さい)又はない 2普通 3多い(大きい) 4非常に多い(大きい)

「学校運営支援員」モデル校事業の成果

共通理解

- ・ 職員の退勤時刻、生徒の下校時刻の設定
- ・ 自校の時間外業務の実態を職員に提示し、月80時間以上の職員の実態を全職員が認識
- ・ 業務精選検討委員会を構成し検討した内容を運営委員会、職員会議で議論→マネジメント的観点での発言、多忙化に配慮した発言が増加
- ・ 業務量・負担感アンケートの結果から業務量が多く、負担感が大きい職員を管理職が把握し、声掛け・面談・業務分担の見直しを実施

共有

- ・ 部活動の活動時間・休養日の設定状況の一覧を作成し、全職員で共有
- ・ ICTを活用し、教員・生徒・保護者が入試情報を閲覧できる環境を整備
- ・ ICT活用による生徒情報(部活動、委員会、検定試験、模試結果等)を一元化し教職員で共有
- ・ アンケートで明らかになった課題を職員会議で共有

効率化・業務の精選

- ・ 学級減に伴い、分掌の見直しを実施
- ・ ICTを活用し、各種調査・アンケートのメール配信と自動集計を行い、集計業務を軽減
- ・ 三者面談でのICTを活用することにより、一元化した情報を用いることにより面接時間の削減を図った
- ・ クラウドサービスを利用してアンケート集計を実施し、集計業務を大幅に軽減

協働

- ・ 担任・副担任業務の業務分担を明確化
- ・ 風通しがよく、全体として互いを意識しながら業務に取り組める環境の整備
- ・ 年休を取得しやすい職場環境づくり
- ・ 教職員が悩みを相談しやすい環境づくり
- ・ 副担任会を実施し、担任支援の業務を確認
- ・ 分掌業務の役割分担について、各分掌で検証を実施
- ・ 進学クラスの運営について進路課等で組織的に補習を行える支援体制を整備
- ・ インターンシップにおける教員の役割を委員会で検討し、役割を明確化

提言(まとめ)

- ①現状分析と共有の重要性 ②カリキュラム・マネジメント ③業務の効率化・精選 ④役割分担と業務量の平準化 ⑤学校外の心理や福祉の専門職員等との協働 ⑥部活動の適正化 ⑦時間だけでは測れない業務負担への配慮とケア ⑧特に配慮を要する教員への対応 ⑨教員も「働き方改革」(意識改革) ⑩多忙化対策の取組の「見える化」

外部人材の活用推進モデル事業の成果

熱海高校・金谷高校・浜松北高校

清水西高校・藤枝西高校・天竜高校

進路指導業務補助員配置

学校司書業務補助員配置

関係する分掌職員の時間外業務の合計時間(平均)、業務量・負担感が減少

進路指導補助員配置の効果

- ・ 進路指導に充分時間が割けるようになった
- ・ 生徒個々に応じた指導ができるようになった
- ・ 余裕を持った生徒指導ができるようになった
- ・ 授業準備や放課後の進路指導が集中してできた
- ・ 進路課の職員の負担が大幅に軽減し、教材研究等に時間を充てることができた
- ・ 授業準備や生徒への指導の時間を確保できた
- ・ 補助員配置により生徒対応の時間が増加した

学校司書補助員配置の効果

- ・ 日常の業務量が軽減・効率化され、生徒と向き合う時間の確保ができた
- ・ 学校司書を任う事務職員の負担が軽減
- ・ 継続任用により専門性が高まり、さらなる業務の軽減が可能
- ・ 図書委員への効果的な指導ができるようになった
- ・ 図書室に補助員が常駐することにより、生徒は図書に関する質問が常に可能となった
- ・ 教材研究・研修準備・部活動指導に時間を割けた
- ・ 勤務時間に他の業務ができるようになった
- ・ 補助員が基本業務を担うことにより、特別な企画が実施できた
- ・ 教材研究、部活動指導、分掌それぞれの仕事にバランスよく力を注ぐことができた

分掌等にターゲットを絞った人的投資は教職員の業務量・負担感の軽減につながる

課題 …… 予算の確保及び具体的な方策の検討

平成29年度「学校運営支援員」モデル校事業

業務改善モデル(3校)

吉原高校

平成28年度の「ICTを活用した校務効率化」の研究継続

池新田高校

相談業務システムの構築による担任・部活動顧問の抱える業務の改善の研究

袋井商業高校

小論文指導システムの改善・構築による担任・教科担当の負担軽減を研究

部活動多忙化解消モデル(1校)

伊東商業高校

保護者人材バンクの活用及び部活動を中心に割振り及び振替日の取得実施に特化し研究

教職員の多忙化解消

- 生徒と向き合う時間の確保
- 教職員の心身の健康
- 教育の質の向上